千葉県の千年村と限界集落の立地に関する比較研究

高　橋　大　樹*
梶　尾　智　美*
木　下　　剛*
池　邊　このみ*

1.研究背景・目的

千年村とは風致のみならず地形・地質や植生といった集落の基盤としての地形環境とそれに適応する集落構造、そこに展開される共同体を総合的に評価した、1000年間持続してきたと考えられる集落のことである。[1)]

古代から今日まで持続してきた集落がある一方で、現在社会問題の一つとして集落人口の高齢化により存続がままならない「限界集落」[2)]が存在する。限界集落とは、過疎化などで人口の50%以上が64歳以上の高齢者になり、冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難になった集落のことを指す。現在では過疎地域自立促進特別措置法や総務省過疎対策室などで過疎化の対策が講じられているが、自治体レベルの対策になっており、町字単位での過疎化はさらに進んでいると考えられる。

本研究では、千葉県内の千年村と限界集落について行政区画単位である町字単位での比定を行い、両者の立地を分析することで、今後の集落の立地環境面からみた持続性について考察することを目的とする。

2. 研究方法

1）対象町字の比定

今回対象とした町字は平成23年度国勢調査（小地域）に記載されているものから選定を行った。国勢調査に記載されている町字の中には、町字をさらに細かく分けた丁目という行政単位が存在するが、千年村の比定との整合性を合わせるために丁目ではなく町字単位で比定した。

①千年村の比定

長年にわたって集落が持続している可能性のある地域を客観的に特定するために古文献記載地名の同定地を抽出する。方法は「和名類聚抄」[3)]を用いる。ここには当時の国/郡/郷名が全国規模で網羅されており、この郷名（約4000）が同定される現在の場所について「角川地名大辞典」の成果を照らし合わせ、古代地名の現在地が特定可能な地域を調査対象地としている。和名抄記載郷の正確な範囲は不明であり、現時点で最も信頼のできる見解として「角川日本地名大辞典」における町字の単位での比定に絞った。

②限界集落の比定

今回の調査における限界集落の定義を64歳以上の人口比率が50%以上の町字とした。千葉県内の全ての市町村の町字を合計すると全6541町字あり、秘匿地域や人口不明地域・丁目を除いた地区3403町字の中から限界集落の比定を行う。

2）千年村・限界集落の町字の立地分析

比定した千年村・限界集落の町字の立地面からみた比較分析を行う。本研究では、千葉県スケールでみた地形立地の比較と千年村と限界集落の重複・隣接している地区の分析を行なう。

①地形・流域分析

千葉県レベルで見た千年村・限界集落の町字を大地形による区分で立地分析を行なう。20万分の１土地分類基本調査地形分類図を用いて、千葉県の地形を低地・ローム台地・丘陵地・山地の4地形に分類し、千年村・限界集落の町字の地形立地を特定する。また同時に千葉県の一級・二級河川のプロットも行いそれぞれの町字との関係の分析を行う。

②千年村・限界集落の重複・隣接の分析

千年村・限界集落の町字が重複・隣接している地区の有無の検証し、その理由について考察を行なう。

3. 結果

1）千年村と限界集落の比定

千葉県の千年村は、和名類聚抄に記載されている178郷中から103郷比定することができた。その103郷の中に現在の地名254町字が確認できた。

千葉県の限界集落は千葉県内3403町字の中で64歳以上の人口が50%以上の町字を比定した結果、全部で58町字存在した。しかし、その中には特定の特別養護老人ホームの入居者の人口も計上されているため、本研究では特別養護老人ホームが立地していない26町字を対象とした。

2）千年村・限界集落の町字の立地分析

①地形立地分析

千葉県の地形は北部から中部にかけて下総台地と呼ばれるローム台地が広がり、中部に上総丘陵と呼ばれる丘陵地、南部には山地地形と丘陵地形がモザイク状に広がっている。また最北部利根川沿いには低地が広がり、東部には九十九里平野が大規模の面積を占めている。

千年村の地形立地は千葉県の北部から中部にかけてはローム台地と低地の際部に多くの町字が立地している。また、一部の町字は養老川・小櫃川下流部や九十九里平野の自然堤防・砂州に立地している。南部では山地と丘陵地がモザイク状になっている地形の中でも多くの町字は丘陵地形に立地している。また、北部・中部と比べて沿岸部の丘陵地に立地している傾向がみられる。

＊千葉大学大学院園芸学研究科

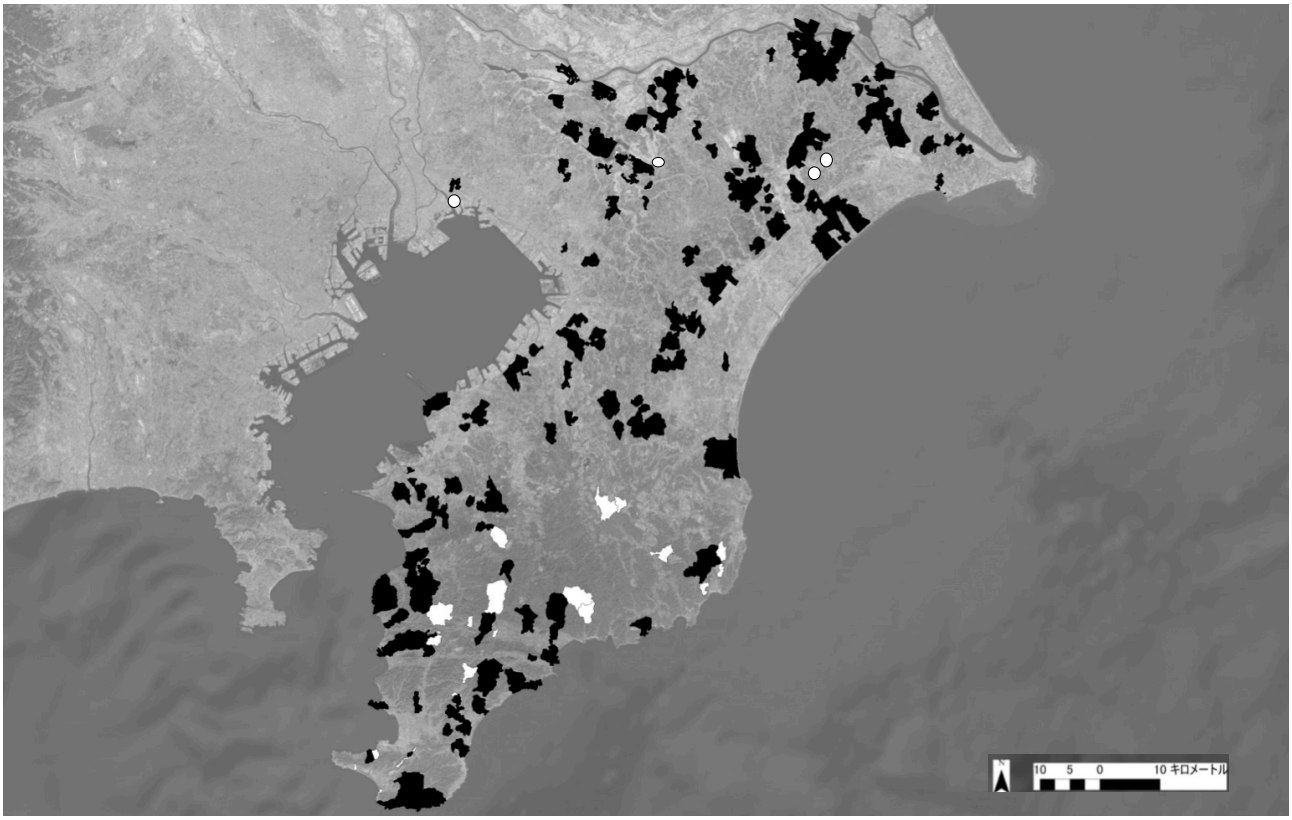

図１千年村・限界集落立地図　(黒色：千年村　白色：限界集落)

限界集落の地形立地は大半が南部の山地に立地している。また一部千葉県北東部の栗山川上流部にも立地がみられた。千葉県南部の限界集落の立地として小櫃川・小糸川といった千葉県の中でも河川距離が長い河川の最上流部に町字立地がみられた。

このように千年村と限界集落の地形立地において明らかな違いがみられた。特に千年村の立地は限界集落に比べ、台地・丘陵地と低地の際部への立地が目立った。これは飲料水の確保や稲作のしやすさなどが考えられる。一方、限界集落の立地は山地の立地が多くみられ、中でも河川の最上流部の立地が顕著にみられた。林業や炭焼きなどの山の産業が盛んであったが、時代と共にその役割を終え、また交通環境でも不便な場所に立地していることが限界集落化の要因のひとつと考えられる。

②２タイプの町字の重複・隣接についての分析

千年村と限界集落が重複している町字は存在しなかった。つまり、限界集落化している千年村は存在せず千年村の持続性は非常に高いといえる。

一方で、千年村と限界集落が隣接している町字はいくつかみられた。千葉県南部の限界集落が多く立地している地域では、山の尾根を境に千年村と限界集落とが隣接している場所が存在した。また夷隅地域では、近年できたニュータウンが限界集落となっていて、そこに近接して千年村が立地している場所がみられた。また同一流域において中流・下流部に千年村が立地して、上流部に限界集落が立地している場所も存在した。

千年村と限界集落が隣接する町字が発生する理由は大地形区分による違いよりも山の尾根の境などより詳細な微地形レベルの違いやその町字の成立背景・産業の変遷による衰退など様々な理由が存在すると考えられる。

4. まとめ

本研究により、千年村と限界集落の地形立地で明らかな違いを証明することができた。また千年村と限界集落が重複する町字は存在せず、千年村は現在においても持続性が高い町字であることが明らかとなった。

一方で、限界集落に隣接する千年村も存在した。これは現在の地形のみの分析だけでなく、より詳細な微地形調査や町字ができた歴史的な背景を究明するなど町字の複合的な分析を要する。今後の課題として、このような点に着目して千年村と限界集落の立地環境の比較研究をより深めていきたい。

参考文献

1) 千年村運動：https://sites.google.com/site/kobonson/
2) 山村環境社会学序説―現代山村の限界集落化と流域共同管理：大野晃　農山漁村文化協会
3) 和名類聚抄：931-938 年成立。源順編纂とされる日本初の漢和辞書